

## 第 6 回 アジア理工系学生連携促進プログラム

### “6th ASCENT” 活動報告書

文責：石丸智貴

#### 1. 概要

アジア各国の理工系学生を日本・東工大へ招き、各年のテーマに基づいて企業・大学機関への訪問や特別講義、ディスカッションなどを行う約 10 日間の国際交流プログラムである。様々なアクティビティを通して、将来に続く国際的な学生ネットワークを構築することを目的としており、2009 年度より毎年 3 月に開催されている。

#### 2. 日程

2015 年 3 月 13 日(金)から 3 月 23 日(月) (計 11 日間)

#### 3. 参加者

SAGE スタッフ 10 名

プログラム参加者 19 名

内訳：日本 東工大より 7 名 (日本人学生 6 名、留学生 1 名)

タイ チュラロンコーン大学より 3 名

フィリピン デラサール大学より 2 名

インドネシア バンドン工科大学より 5 名

インドネシア大学より 1 名

ディポネゴロ大学より 1 名

基調講演 外部聴講者 4 名

内訳：東工大 日本人学生 2 名

東工大 留学生 2 名

最終発表会 外部聴講者 10 名

内訳：東工大 日本人学生 3 名

東工大 留学生 1 名

その他 6 名

(蔵前工業会から 1 名、訪問企業先から 3 名、東工大教授 1 名、他企業から 1 名)

## 交流会 外部参加者 7名

内訳：東工大 日本人学生 3名

東工大 留学生 0名

その他 4名

(蔵前工業会から1名、訪問企業先から1名、他大学学生1名、一般から1名)

## 4. 活動スケジュール

日程		内容
3/13	金	海外学生入国日、歓迎会
3/14	土	開会式、事前学習発表会、討論会
3/15	日	基調講演(NEDO)、文化交流会
3/16	月	企業見学(ネオモルガン研究所)
3/17	火	企業見学(東芝 京浜事業所、東京ガス 横浜研究所)
3/18	水	プレゼンテーション講習会、討論会
3/19	木	研究室見学、討論会・報告会準備
3/20	金	中間報告会、討論会・報告会準備
3/21	土	最終報告会、交流会
3/22	日	日本文化研修、送別会
3/23	月	海外学生出国日

## 5. 所感

第6回目を迎えた本プログラムでは、これまでと比較し、よりコンテンツ、応募者の充実を目指し準備に取り組みました。今回初の取り組みとしましては、①プログラム期間の延長、合計11日間で実施②最終報告の質の向上を目的とした中間報告会の設置、③過去の参加者による面接選考の実施などが挙げられます。過去の参加者の意見を取り入れることや、過去の参加者から協力を得ることでより規模が大きく、充実した期間を作り上げたと考えています。また、本プログラムで始めてフィリピンから学生を招くことに成功し、より多様性のある学生間での討論、交流を行うことができたと考えています。

今回の成功点としては広報による認知度の向上、報告会の完成度向上、企業の方との連携を挙げます。まず広報について、今回は過去の参加者にも強く広報協力を要請し、過去の参加大学で本プログラムについて情報を広めてもらいました。結果として100名以上の学生からの申し込み用紙の問い合わせ、例年と比較して約3倍の申し込み者である62名から申し込みを受け取ることができました。また、報告会について、今回は中間報告会を最終報告会の前に導入することで、グループでまとめた内容を事前にスタッフ、およびプログラム参加者に発表する機会を設けました。また、SAGEのアドバイザーであるTom Hope先生(東工大留学生センター)から中間報告会にてコメント、アドバイスをいただきました。そうすることで発表グループに客観的なコメントを与えることができ、また、プレゼンテーションの練習、マナーの確認などが行うことができました。最終報告会では発表のマナーや発表内容の分かりやすさなど、例年に比べて向上があったと感じます。企業の方との連携について、プログラム前に事前に打ち合わせの時間を設けていただくなど、例年に比べて多くのサポート

をいただきました。事前に見学内容についてスタッフが理解をすることで、討論会の内容についてスタッフミーティング内で議論することができました。また、お世話になった企業の方に最終報告会の案内を流したところ、4社中3社から見学にいらしていただき、最終報告会にコメントをいただくこともできことから、今までに比べてより企業を巻き込むことができたと考えています。

今後は、SAGEメンバー、過去のプログラム参加者のコネクションを用いたり、各大学にある国際学生ネットワークを広げることを目的とした学生団体に連絡したりすることによって、参加国、参加大学の拡大や、さらなるプログラムの拡充を目指し活動していきます。また、次回の第7回の開催について、東南アジア諸国のアカデミックタームの変更により2016年夏の開催を目指しております。時期の変更による課題、スケジュールの検討なども行っていきます。

## 6. 活動風景



写真1：集合写真



写真2：企業見学



写真3：文化交流会



写真4：討論会

以上